

ソロモン、神殿を奉献

キー・ヴァース「主の栄光の臨在が宮を満たしていたので、祭司たちは主の宮に入ることができな
かった。

第二歴代誌7:2

厳選された聖典

第二歴代誌7:1-7,11

ソロモンが建てた神殿は、イエスとその

"小さな群れ

"によって造られた、現在の福音時代に神が建てようとしている、より偉大な霊的神殿を示すものだった。(ルカ12:32)。パウロは、「あなたがたは神の神殿です」と述べている。(1コリント3:16,17; 12:27)。私たちの主イエスは、この天の神殿の「土台」である。

ソロモン神殿の一部として選ばれた文字どおりの石は、神殿の最終的な場所にぴったりと収まるように、前もってカットされ、形が整えられ、磨かれてい

た。そのため、建物を完成させるためにすべての石を組み立てるとき、ハンマーやノミは必要なかった。(列王記上6:1-

7)。このことは、神が今、聖別された者たち一人ひとりをどのように整え、成長させ、証明しておられるかを予見している。人生の試練や困難は、それぞれの石に施されたノミと研磨によって描かれ、キリストのからだの各メンバーが将来の働きのために準備されることを物語っている。

ペテロはこう付け加える。"あなたがたもまた、生きた石のように、聖なる祭司職となるために、霊的な家に建てられ、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的ないけにえをささげようとしているのです"。(1ペテロ2:5-

9)。この天にある霊の神殿は、「小さな群れ」の最後の一人が死に至るまで忠実であると認められるとき、現在の福音時代の終わりに間もなく完成する。黙示録2:10

神殿が完成した後、ソロモンは、キリスト・イエスとその忠実な信者を指し示す契約の箱を神殿に運び込ませた。そして、レビ人、楽師、歌い手たちは、「これらの言葉をもって主を賛美した：主はいつく

しみ深い！主はいつくしみ深く、その忠実な愛はとこしえまでも続く。第二歴代誌5:1-13

そしてソロモンはひざまずき、神に献身の祈りをささげた。(第二歴代誌6:12-42)。彼が祈り終わると、"火が天から下ってきて、燔祭といけにえを焼き尽くした。"これは神が受け入れられたことを示し、"主の栄光が家に満ち溢れた"。イスラエルのすべての民は、火が下って主の栄光が神殿に満ちているのを見て、地に伏し拝み、主を賛美した！主の忠実な愛はとこしえまでも続く。"第二歴代誌7:1-3

ソロモンの神殿は "すべての国民のための祈りの家"となるはずだった。(マルコ11:17、イザヤ56:7)。これは、メシヤ時代に霊的な神殿が完成し、栄光を受けた後、すべての国々が神に近づき始めることを示している。そのためには、この霊の神殿に近づく必要がある。すべての被造物は、神がご自分の子どもたちが本当は誰であることを明らかにされる、その将来の日を待ち望んでいるのです。"とパウロは書いている。ローマ8:19

そして全人類は、完成した霊的神殿（キリスト・イエス、「体である教会のかしら」、完成した教会、「花嫁」クラス）を通して、礼拝のために主に近づくよう招かれる。（黙示録22:17、コロサイ1:18）。キリスト"のクラスを通して、人類は御父に近づき、そのメッセージを聞いて従う者は皆、喜ぶ。その時、「大いなる喜びの福音」がすべての人々にもたらされるのである。ルカ2:10